

すごい!

英語は

18の前置詞・
副詞で英語を
モノにする!

前置詞だ!

for
off

to
out

with by

up over

around
at on
across

down in
along
away
of under

シリーズ累計100万部突破

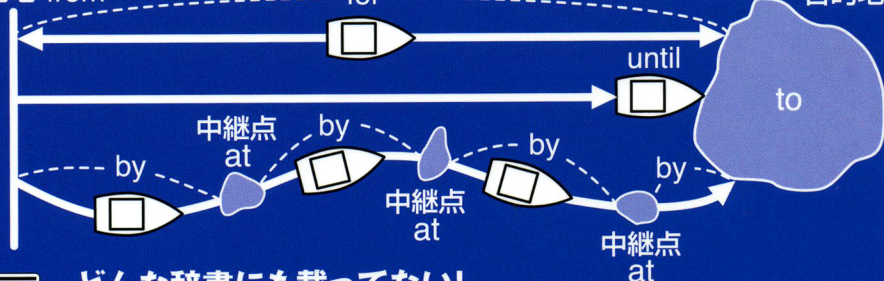
西村喜久

Yoshihisa Nishimura

出発地 from

for

目的地



どんな辞書にも載ってない!

前置詞の「使い方」がわかる本

はじめに

本書は、前置詞の適切な使い方をマスターすることで、あなたを『**生命が吹き込まれた英語を話せる人**』にする本です。

「日本人の英会話力向上」に半生をかけた私は、著書の読者さんや、私の講座へ来てくれた生徒さんから数多くのお手紙をいただきます。その手紙の中で圧倒的に多かったのが、「**前置詞の使い方がよくわかりません**」という訴えでした。これは、中学生から社会人まで共通した問題でした。

中学校の授業でしっかりと前置詞について学習する機会があれば、このようなことにはならないはずなのですが……。日本の英語教育の現場では、前置詞を「脇役」程度にしか思っていないのではないのでしょうか。

スペルが短く、名詞や動詞などに比べると存在感の薄い前置詞。学校ではほんの触り程度しか教えられず、「テキストの暗記のくりかえし」に終始することが常識とされる日本の英語学習では、前置詞の重要性などわかるはずがありません。おお、なんとかわいそうな前置詞……。

近年、有名企業の社内公用語の英語化が話題となり、日本でも急速に英語のニーズが高まってきました。

仕事で日本国内完結型だった時代から、海外を見ずには成り立たない時代にシフトしたことや、世界中で英語使用人口が増えてきたことに対して、日本人はやっと危機を感じ始めたので

しょう。新興国の英語学習意欲には目を見張るものがあります。日本人ははたして、新興国に追いつき、追い越すことができるのでしょうか？

さておき、日本人が英語に開眼することは、英語教師である私にとってはとても喜ばしいことでありますが、今の英語教育を変えていかない限り、この英語ブームは失敗に終わってしまうのではないかという不安を抱えています。

なぜなら、日本の英語教育は何か重要なことを忘れて今日まで突っ走ってきてはいませんか？ ……そうです、**前置詞の重要性を無視した英語学習に、ネイティブに通用する会話などありえないのです。**

私の英語教育メソッドは、とにかく前置詞が重要であると位置づけています。学校で習う前置詞の扱い方とはまったく異なるのです。前置詞がわからずして英語的思考をモノにするのはほとんど不可能であると言っても過言ではないと、私の英語教師経験上感じております。

なぜ私がここまで「英語は前置詞だ」と口を酸っぱくして言うのか理由を申します。L. P. Ayres 博士の研究を引用しますが、英語の日常会話を分析してみますと、

◎ **10 語に 1 語は the か and**

◎ **5 語に 1 語は of, to, I**

◎ **4 語に 1 語は a, in, that, you**

なんと「**日常表現の 60% は、わずか 100 の単語から成りたっている**」そうです。100 語の単語のうち、前置詞は多くの部分を占めているのです。前置詞の使い方をマスターしてしまえば、あなたの英語力は爆発的に上達するということなのです。

以下、主な前置詞をあげてみます。

◎ **名詞を伴う前置詞**

about, by, for, from, with

◎ **時を表す前置詞**

about, after, at, before, by, during, from, in, on, since, until

◎ **方向を表す前置詞**

across, along, around, back, down, into, past, off, onto, out, over, through, to, towards, under, up

◎ **位置を表す前置詞**

above, among, at, behind, below, beside, between, by, in, near, next, on, opposite, to, under

どれも中学校の英語の授業でおなじみのものでしょう。

あえてここに日本語訳をあげなかったのは、中学校で習った前置詞の日本語訳は、英会話の大海原の上では、氷山の一角にすぎないからです。

表面上は静まっている海に見えても、海底では潮流が躍動しているように、西村式メソッドでは氷山の見えない部分、つまり、学校では教えてくれなかった前置詞の`動、の意味を学習していきます。

本文の見出しでは、学校で学んだ前置詞の日本語訳と、西村式メソッドの前置詞の意味を、氷山にたとえています。

「氷山の一角」の部分(=学校で学んだ前置詞の日本語訳)

「～の上に」
「動く(機能する)」「傾く」
その結果「～に加わる」

① on

「氷山の見えない部分」(=西村式メソッドの前置詞の意味)

〃動、の前置詞とは、「動き・空間・距離・方向・時間」の思考を帯びた前置詞です。

前置詞だけに限らず、常に〃動、の思考を意識することで、普通だったあなたの英語が、命を与えられた生きた英語に変化するのです。



あなたは、上の絵を見て、直感的にどう感じますか？

(A) 床の上にボールがある

(B) ボールが床の上にある

日本人とネイティブに「この絵を英語で説明してください」

と共通の課題を出すとします。すると、多くの日本人は、**There is a ball on the floor.** (床の上にボールがある) と思い浮かぶはずです。したがって、(A) のように直感的に感じる思考を持っていると言えます。

(A) の「床の上にボールがある」考え方は、床という〃静、のものを中心に考えているのです。

一方ネイティブは、**A ball is on the floor.** (ボールが床の上にある) と考えます。したがって (B) を選んだあなたはネイティブに近い思考かもしれません。

ネイティブの思考とは、

◎動くもの

◎力の強いもの

◎影響力の強いもの

など、〃動、のものを中心に考える思考のことです。

実は左の絵をどう感じるかによって、英語的な発想が身についているか、そうでないかがわかるのです。

(A) を選んでしまったあなた、どうか落胆しないでください。もののとらえ方は、これから始める西村式メソッドの前置詞学習で変えていくことが可能なのですから。そのためには「**自らの意志と発想力**」をフル活用して、修得に力を惜しまないでください。

また、この英文の中に前置詞の **on** があるのに気づいたかと思いますが。前置詞があることによって、絵を見なくてもボール

と床の位置関係が容易に想像できますよね。床から浮いているわけでもなく、床下に隠れているわけでもないことがわかります。

このように前置詞はもっとも端的に情景を伝えることができるすぐれものなのです。たったこれだけの短い前置詞だけで、文章が生きてくるのです。すばらしいと思いませんか？

今まで前置詞の学習を後回しにしてきたことが悔やまれてならないことでしょう。

ネイティブは自然と`動、の発想が身についています。日本人は古くから`静、の観点で物事をとらえる習慣がありますが、`静、の思考を`動、の思考に近づけていけば、いずれは学習の成果が血となり、肉となって身についていくことでしょう。

また、ネイティブ的な発想が身についていけば、ネイティブとのコミュニケーションも苦ではなくなるはずです。今までネイティブに話しかけられても、緊張したり、無視したり、避けていたあなたも、街中で自分からネイティブを探し出してまで「英語を話したい！」という衝動に駆られるまでになるはずです。なぜなら「**英語は本当は楽しい**」のですから。

さあ、気分が高まったところで、勉強を始めましょう！

「日本人の英会話力向上」に半生をかけている
西村喜久

すごい！ 英語は前置詞だ！



はじめに	003
------------	-----

Introduction

西村式『前置詞と副詞の基本』が

いとも簡単にわかる！ 017

1. これが前置詞・副詞の正体だ！	018
-------------------------	-----

ちょっと脱線！ 特別講座 033

結果を表す構文 (be 動詞 + 形容詞 [+ 名詞])

2. 「状態」を表す副詞	034
--------------------	-----

3. 「方向」を表す副詞	036
--------------------	-----

ちょっと脱線！ 特別講座 043

因果関係の法則

4. 前置詞について	044
------------------	-----

Chapter 1

西村式『前置詞の動き・空間・距離・方向・時間』が
いとも簡単にわかる！ 055

1. on 056
「動く（機能する）」「傾く」その結果「～に加わる」
2. in 070
「すでに」または「あらかじめ～に加わっている」
「仮に～に加わるとするならば」
Let's take a coffee break! 075
英語を始めたきっかけ
3. at 076
「目的を持って一時的または一瞬動いて」その結果「止まる」
「～にある」
4. out 084
「外に向かって」「広まって」その結果「機能し尽くす」
「力尽きる」
5. for 092
「～を求めて」「～を目的として」その結果「～に向かう」
「～の代わりをして」「～を受けて」その結果
「～をしてもらう」「～（期間）の間」
Let's take a coffee break! 097
初公開！ 学生時代の英語学習法①

6. by 098
「～の力で（＝他の力を頼って）進む」その結果
「目標に少し足りない」または「通り過ぎる」
「手段に全面的に依存する」「～のそばに」
「少しずつ動作を行う」
Let's take a coffee break! 107
初公開！ 学生時代の英語学習法②
7. with 108
「同時に動いて」「同時に加わる」「一部のものに依存する」
8. up 112
「動く」そして「上の方へ向かわせる」
その結果「最後まで、力尽きるまで、とことん動く」
9. along 122
「～に沿って進む」その結果「連続してつき進んでいく」
Let's take a coffee break! 127
「情景発想法」誕生秘話①
10. off 128
「これまでやってきた動作を（一時的に）中断する、やめる」
（目的とするところから）「離れて」「去る」そして「消える」
Let's take a coffee break! 133
「情景発想法」誕生秘話②
11. around 134
「～のまわりを動きまわる」「～を目的として」
良い方に動きまわる「災難から逃れる」「避ける」
悪い方に動きまわる「（うまく動いて）裏をかく」
「出し抜く」

12. down	138
「直ちに」「離れて行動する」その結果「貫く」「尽きる」	
13. away	144
「ずっと継続して」その結果「離れて」「遠のく」	
14. of	150
「くっついて離れない」	
15. to	158
「向かう」「向ける」	
Let's take a coffee break!	165
英会話講師奮闘記①	
16. under	166
「(相手から力が) 加えられて」その結果	
「下に向いて」「隠れる」	
17. over	170
「～を越えて」「～を離れて」「～の上に」	
18. across	174
「十字状に進んで」その結果「目的地に達して」	
Let's take a coffee break!	178
英会話講師奮闘記②	

Chapter 2

西村式『前置詞の選び方』が
いとも簡単にわかる！ 179

1. どこが違うの!? to, for	180
2. どこが違うの!? by, for, until	186
3. どこが違うの!? to, with, by, in	190
Let's take a coffee break!	193
英語にまつわる苦い話	
4. どこが違うの!? on, to	194
5. どこが違うの!? away, off	196
Let's take a coffee break!	198
英語は腹式呼吸だ！	

Chapter 3

西村式『前置詞の円運動』が

いとも簡単にわかる！ 199

1. over, to, for 200

2. by, up, down 203

3. on, away, along, off 207

4. at, in 208

Chapter 4

西村式『副詞＋前置詞』が

いとも簡単にわかる！ 209

1. away + 前置詞 210

2. on + 前置詞 212

3. in + 前置詞 216

4. up + 前置詞 218

ちょっと脱線！ 特別講座 227

太陽と副詞の密接な関係①

5. down + 前置詞 228

ちょっと脱線！ 特別講座 231

太陽と副詞の密接な関係②

6. out + 前置詞 232

ちょっと脱線！ 特別講座 233

太陽と副詞の密接な関係③

7. through + 前置詞 234

Chapter 5

西村式『形容詞＋前置詞(副詞)』が いとも簡単にわかる！ 235

1. 形容詞＋ at236

2. 形容詞＋ in238

3. 形容詞＋ with240

おわりに243

カバーデザイン：株式会社ヴァイス 目黒眞

Introduction

西村式『前置詞と副詞の基本』が

いとも簡単にわかる！

「前置詞と副詞の違いは？」と聞かれたら、答えられますか？

ここでは本編に入る前の予習として、前置詞・副詞の働きを明確にしておきましょう。本編とダブる部分もありますが、ご了承ください。

英語は on, by, in など、一般的に「前置詞」といわれるものは、「副詞」と「前置詞」の2つの意味が辞書に載っています。前置詞にはたいてい副詞の意味を持つものが多いのです。

副詞は、「方向」と「空間」だけで対象物を説明します。そこには目印となるものは存在しません。

たとえば、ヘリコプターに乗って上空から「私の家はそこよ！」と地理教示をするようなものです。

前置詞は、地上から「私の家は郵便局の隣よ！」と言うように、「郵便局」というはっきりとした目印があるのです。

前置詞とは、目印の前について、その目印の「動き・空間・距離・方向・時間」を「前置詞＋名詞」の形で表すものです。

前置詞と副詞を理解するには、このことを頭に入れておいてください。



これが 前置詞・副詞の正体だ！

1. 前置詞って何？

英語学習は、「テキストの暗記のくりかえし」がもちろん大切なのですが、それよりも「何をどうするか(=原因)」「何がどうなるか(=結果)」を念頭において会話することの方が重要です。なぜならネイティブは自然とこれらを中心として物事を考える習慣がついているため、より英語らしい、伝わりやすい英語になるといえます。これを『因果関係の法則』と呼びます。また、まえがきにも書きましたが、ネイティブは、

◎動くもの

◎力の強いもの

◎影響力の強いもの

など、`動、のものを主語として考える傾向があります。あわせてこの考え方もものにしてしまえば、あなたも英語的な発想の頭に切り替えることができますようになります。

次の前置詞・副詞をご覧ください。

on「～の上に」	off「離れる」
in「～の中に」	around「～のまわりに」
at「～に、～で」	down「下に」
out「外に、目的からはずれて」	away「離れて」
for「～のために」	of「～の」
by「～によって」	to「～へ」
with「～と一緒に」	under「～の下に」
up「上に」	over「～の上に」
along「～に沿って」	across「～を横切る」

見慣れた日本語訳が勢ぞろいしていますね。おそらく中学校で皆さんが習ったであろう日本語訳をあげてみました。

これらの訳もまちがいではないのですが、ごまんとある英文を英文解釈上の日本語に置き換えた意味にすぎないのです。

これだけでは対象物の「動き・空間・距離・方向・時間」がまったくわかりませんよね。つまり相手に情景が伝わりにくい英語になってしまうわけです。

on と over を見ても、どちらも「～の上に」という意味であるため、双方の位置関係がはっきりとわかりませんよね。

また「to you と for you, どちらを使えばいいんだろう？」と迷ってしまった経験もあるのではないのでしょうか。

中学校で前置詞の使い方を明確にしないまま授業が進んでしまうと、大人になった今になって苦勞してしまうのです。

私は英語教師経験を通じて、「前置詞がわからない」と悩む受講生がいかに多いかを知り、愕然としました。

このままでは日本人の英語力が伸び悩んでしまうのではないかと危機感を感じた私は、積年の研究から、独自の前置詞学習法を編み出しました。

それが「何をどうするか（＝原因）」「何がどうなるか（＝結果）」というネイティブ的な発想で英語をとらえる『因果関係の法則』です。

この法則のもとに前置詞を学べば、英語の「動き・空間・距離・方向・時間」がわかり、あなたの英語が生きた英語へと変化していくでしょう。

これから、ネイティブ感覚で覚えられる『西村式前置詞学習法』を、本編に先立って紹介します。長くなって恐縮ですが、しばらくの間お付き合いください。

何しろ学校での英語学習とは違った切り口で学びますので、ここでしっかりと頭を切り替えてください。

今までの前置詞の解釈とはいったん距離を置いてみましょう。

2. 前置詞の表す距離感について

前置詞というのは名前の通り「名詞」の前に置く詞（ことば）を表すのです。ですから前置詞は必ず「前置詞＋名詞」として用いるのもこのためです。

まず前置詞を理解するには、動詞には「**遠い動詞**」と「**近い動詞**」があることを知る必要があります。

近い動詞とは、「主語」と「目的とするもの」の距離が近いことを表します。

「S+V+O」（近い動詞）

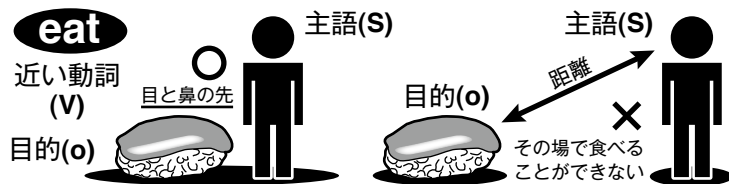
「S+V +前置詞＋名詞」（遠い動詞）

近い動詞の例として、eat（食べる）があります。

I often eat Sushi.（よく寿司を食べる）

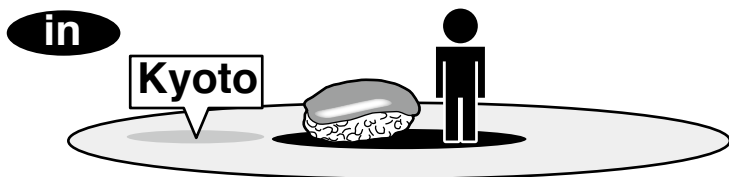
食べるという動作をするとき、「私」と「寿司」との間にはてしない距離や空間があったり、ものすごく時間がかかるのであれば「その場で食べる」という動作ができませんよね。

eatのように「すぐにその場でできる動詞」または「距離や空間がない動詞」を「**近い動詞**」と呼びます。距離や空間があったとしても、目と鼻の先程度の距離をいいます。



I often eat Sushi in Kyoto. (京都でよく寿司を食べる)

先ほどの文章と似ていますが、今度は前置詞の in と場所を表す名詞が入っています。



私と寿司の間には距離や空間がなくても、私と京都の間には距離や空間がありますよね。だから I と Kyoto の間には前置詞が必要なのです。

同じ文章でも、前置詞が of に変わっただけで大きく意味が異なります。

I often eat Sushi of Kyoto. (京都で作られた寿司をよく食べる)

of については本編 Chapter 1 の 14 (p.150 ~) で後述しますが、「(複数のものが) くっついて離れない」「初めからくっついている」「切り離して考えられないもの」を意味するのです。

前置詞が of になったことによって、たとえその寿司が京都以外の場所へ持ち運ばれたとしても、京都という場所で作られた事実は変わらないことを表します。

of は学校の英語教育では「～の」と訳されることが多いのですが、それは日本語訳上の解釈であって、本来の of の意味とはかけ離れたものになってしまうのです。

of は主に「くっついて離れない」ことを意味しますが、of よりも離れたところを表す前置詞は off です。

off は「今いるところから」「その場から」を表し、「その場から何かを始める」「～から離れる」を意味します。

play off は、off が「その場で」を意味し、play が「相手と対戦する」「楽しむために何かをする」を表すので「その場で対戦して試合の決着をつける」を意味します。

kick off も off が「その場で」を表すので「その場でボールを蹴って試合を始める」を意味します。

以下は「～から離れる」を表す off の例です。

This is the cap of his ball-point pen.

(これは彼のボールペンのキャップです)

これは of があることによって「ボールペンとキャップは切り離して考えられないもの」と考えられますが、

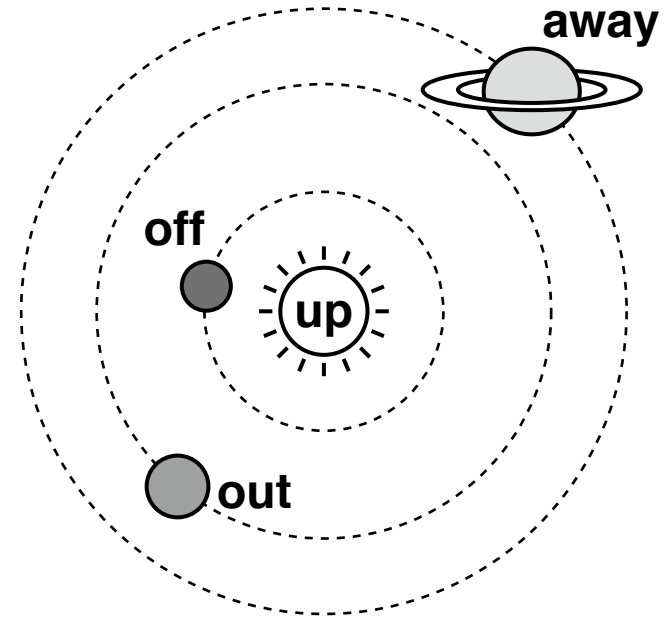
It has come off. とやると「それがはずれた」となります。

このことから、off は of よりも距離が発生することを意味します。

そして off よりも「姿が見えないくらい」離れることを表すには out を用います。さらに out よりも遠く離れると away になります。away は「見えないところに離れる」を意味します。

Please take it **away**. (それを向こうへやってください)

というように、「初めは存在していた」ということがはっきりしているものに対して用います。



3. 副詞・副詞句と形容詞

「副詞」や「前置詞＋名詞」(＝副詞句)は、動作・行為をしている最中の状態を表す語句です。

前置詞と副詞は見分けが付きにくいのですが、原則的には、名詞の前についているのが前置詞、動詞のうしろについているのが副詞です。

同じく状態を表す語句に形容詞がありますが、くつがえすことができない真実、真理を表します。形容詞は動作・行為が行われた結果の状態を表します。形容詞は副詞や副詞句とは似ているようで、時間に差があるのです。

He speaks English **very fast**. (彼は日頃とても速く英語を話す)

彼が英語を話すという動作と同時に起こっている状態を表しています。

He is studying hard. (彼は [いつも] 一生懸命勉強する)

「勉強している」という「動作」とそのときの「状態 (= 一生懸命に)」が同時なのです。つまり彼が勉強しているときはどういう状態かといえば「一生懸命」であると意味します。

It tastes good. (それを味わえば, おいしい)

「味わっているとき (= 動作)」と「おいしい (= 状態)」と感じる 때가 同時に起こるため, good は副詞と考えても構わないのです。

4. 「前置詞＋名詞」の答えを導く疑問詞

前置詞はいつも目的とするものの「目印」を表します。

Q) **What place** is the post office located **around**?

(= Where is the post office located?)

(郵便局はどのあたりに [= どこに] あるの?)

A) In front of the station. (駅の前よ)

このように, 駅が郵便局を教示する「目印」になる語を前置詞といい, 「前置詞＋名詞」の形で用います。しかし **What**,

Who, **Which** のような疑問詞と共に前置詞を用いるときは前置詞を文末に配置するのが普通です。

例1 前置詞を用いる疑問文

(1) **What place** is it located **around**?

(= Where is it located?)

(それはどのあたりですか?)

(2) **Who** would you like to talk **to**?

(誰にあなたは話したいのですか?)

(3) **Which** are you more interested **in**, arranging flowers or making tea?

(生け花と茶道ではどちらに興味がありますか?)

副詞と前置詞とは **Where**, **When**, **How** など疑問詞の答えなのです。

副詞の答えを導く疑問詞は **How** であり, 「前置詞＋名詞」の答えを導く疑問詞は **When** (いつ), **Where** (どこで) となります。これらの疑問詞は「前置詞」の意味が含まれているので「前置詞」を用いる必要がないのです。

例2 前置詞を用いない疑問文

(1)Last Sunday, I went (2)to Nara (3)to see (4)the largest image of Buddha in Japan.
 (5)It has 15 meters (6)above the waist (7)while sitting,
 so it will be (8)about 29 meters tall (9)if it stood. I got
 (10)surprised (11)to hear it.
 I went (12)there (13)with three of my friends and
 walked (14)around the Nara Park. I enjoyed (15)giving
Senbei (16)to the deer.
 I stayed (17)in Nara (18)for about four hours.
 (19)I had a good time.

下線について尋ねる疑問文として予想されるものを、右ページにまとめました。

たとえば(1)の Last Sunday (先週の日曜日に)は「奈良へ行った」ときと同時ですから When (いつ)を表す疑問詞の答えです。そのため「前置詞の意味を含んでいるので前置詞を必要としない」副詞句です。

答え	予想される疑問文
(1) Last Sunday.	When did you go Nara?
(2) To Nara.	Where did you go?
(3) To see.	Why did you go Nara?
(4) The largest image of Buddha in Japan.	What did you see in Nara?
(5) It has 15 meters.	How tall is it above the waist?
(6) Above the waist.	What is the length while sitting?
(7) While sitting.	Which was the style, while sitting or standing?
(8) About 29 meters tall.	How tall would it be if it stood?
(9) If it stands.	How did it about 29 meters tall? ◎実際は座っているので「もし立っていたら」と仮定することは「過去形」で用いる
(10) Surprised.	How did you feel it when you heard it?
(11) To hear it. (or Because...)	Why did you get surprised?
(12) There (=Nara). ◎thereやhereは前置詞の意味を含んでいるので前置詞を入れる必要がない	Where did you go?
(13) With three of my friends.(※)	Who did you go there with ?(※)
(14) Around the Nara Park.(※)	What part of Nara did you walk around ?(※)
(15) Giving Senbei. ◎「鹿にせんべいをやる」という動作と「楽しかった」という状態が同時に起きているため、動詞+動詞の進行形(=V+ing)～の形を用いる	When did you enjoy?
(16) To the deer.(※) ◎鹿と私の間に距離、空間、隔たりがあるため前置詞が使われる	Who did you give Senbei to ?(※)
(17) In Nara.	Where did you stay?
(18) For about four hours.	How long did you stay there?
(19) I had a good time.	How did you feel when you went there?

(※) 表を見ると, (13), (14), (16) の「(文頭に) 疑問詞～(文末に) 前置詞?」の疑問文は「前置詞+名詞」の形で答えられるとわかります。

Q) Who did you go there with?

(だれと一緒にそこへ行ったの?)

この場合, 疑問文で前置詞を文末に置くことによって「with を文頭に持ってきて答えてくださいね」という相手からのメッセージであると受け止めればよいのです。ですから答えは,

A) With my friends. (友達と一緒に)

となります。同じく前置詞を文頭に持ってくる返答例です。

Q) What part of Nara did you go to?

(奈良のどのあたりに行ったのですか?)

A) To Nara Park. (奈良公園に)

頭に疑問詞, 最後に前置詞を使った質問を投げかけられたら, 答える方は落ち着いて, 最後に置かれた前置詞をそのまま使って答えればよいのでとても助かりますね。また, 疑問詞が「主語」や「目的語」を表す場合, 返答には前置詞を入れる必要がありません。前出の表では (12) がそれにあたります。

なぜかという, 英語はどんな長文でも「S+V+O」(近い動詞) か「S+V + 前置詞 + 名詞」(遠い動詞) の 2 通りの構文で「動作・行為」を表すからです。

5. 知覚・感覚動詞と使役を表す動詞の前置詞との関係

see (見る), hear (聞く), know (知る), feel (感じる) など, 感覚を表す動詞を「知覚・感覚動詞」といいます。

また, let, make, have, get は「使役(～させる)を表す動詞」です。これを「使役動詞」といい, 主語によって一方的に「～させられる」という「力」を表す動詞です。

これらの動詞と前置詞の関係を説明します。

知覚・感覚動詞は, 「感じる行為」と「その結果」の間には, 「距離, 空間, 隔たりがない」と考えられるため, 本来, 「動き・空間・距離・方向・時間」を表す働きをする前置詞は, ここでは用いる必要がありません。

(1) I feel the dog pretty. (その犬はかわいい)

これは, 「犬を見る行為 (=するもの)」と「犬を見て感じた結果 (=させるもの)」を表しています。

(2) The news made me happy.

(そのニュースは私を幸せにさせた)

これらは「～させる」という使役動詞を用いていますが, 結果を受けた者の中で感情が発生するため, 「距離, 空間, 隔たりがない」となりますので, 前置詞を用いる必要はありません。

「感じる行為」と「感じさせるもの」、つまり、人に置き換えると、「させる人」と「させられるもの」がほぼ同じ位置で会話をしているとイメージしてください。

「感じる行為」と「その結果」の両方が感覚で行われたこと
ですから、それらの間には「距離、空間、隔たりがない」とい
えます。そのため前置詞を用いて説明をする必要がないのです。



結果を表す構文 (be動詞＋形容詞[＋名詞])

be 動詞 (is, am, are) を用いる構文には「動作・行為を表す動詞が省略されている」と考えてください。

He **is** Jiro. (彼は次郎です)

これは is という be 動詞があるので、それ以前にどういう行為が省略されているのかというと、

His parents called him Jiro.
(彼の両親は彼を次郎と名づけた)

という行為が省略されているのです。その結果が He is Jiro. という意味になるのです。

He **is** busy. (彼は忙しい) これも同じように、

Because he is scheduled to finish the job not later than April 10. (彼は 4 月 10 日までにその仕事を終えなければならないから)

という行為が省略されているのです。

これらの構文は、「be 動詞＋形容詞」または「be 動詞＋名詞」で、「動作・行為がすでに行われてからの結果」を表すので、「覆すことができない状態」「真実」を表すことができます。



「状態」を表す副詞

「S + V + 副詞」で用いられる副詞は「形容詞 = 副詞」の形で用います。

(1) He is running **fast**.

(彼が今走っているときの状態はどうかといえば、速いのである [=彼は速く走っている])

これは「ある動作, 行為をしている最中の状態がどうなっているのか」を意味します。

あくまで「見ていたそのときの状態」を示しているため、ずっと速い状態が続くのではなく、レースが終わってみれば、何人かに抜かれてビリであったということも当然ありうるわけです。

(2) These flowers are **beautifully** blooming.

(これらの花はきれいに咲いている)

「これらの花が咲いているときはどういう状態なのか」といえば、花を見たそのときの状態が「きれい」なのであって、明日見に行けば、もしかしたら踏まれてしまって変わり果てた姿になるかもしれないという意味を含んでいるのです。

副詞は「行為」と「状態」の結果が「同時である」ことを表すのです。

このことは(2)のように「形容詞 + ly」の形で用いられる副詞にも同様にいえます。

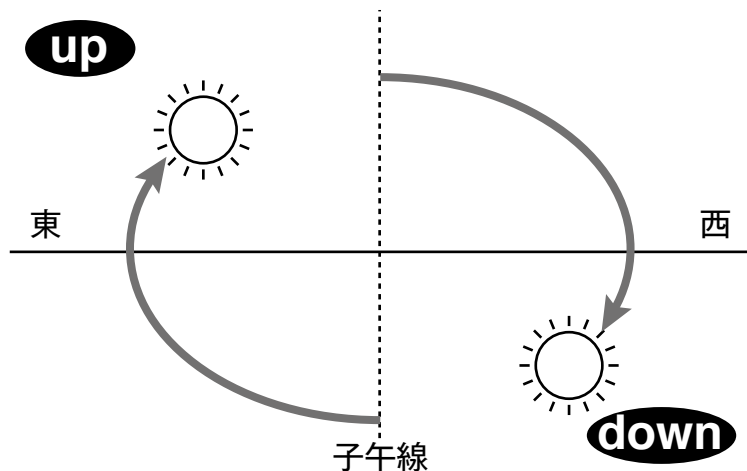


3 「方向」を表す副詞

1. 太陽の動きと副詞の関係

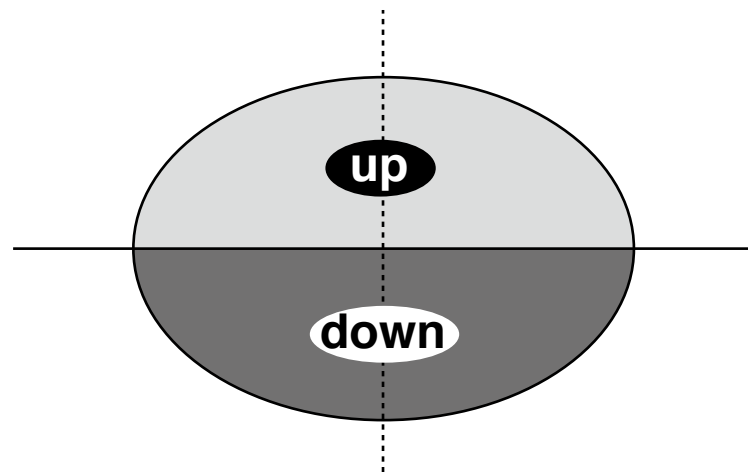
up, down, out, off, away を主に用いて方向を表します。

方向を表す副詞は太陽の動きに置き換えて説明することができます。次の図は地球と水平線の図と考えてください。



太陽が東の水平線から昇ることを **up** といい、太陽が子午線を超えて西へ向かって沈んでいくことを **down** といいます。

地球の水平線を軸に、上と下で **up** と **down** に分かれます。
up + down で「円 (= 全体)」を意味します。



この円は太陽が時を刻む軌跡を表します。

in は太陽の軌跡ですから「すでに今までの時を刻んで」比喩的に「すでに～という経験, 体験が加わっている」を表します。

ですから **in my life** というのは「(過去を回顧して) 経験, 体験した私のすべての人生の中で」を意味します。

in は「人間が生まれてから死ぬまでの一生」を表しています。

The sun is **up**. (= The sun is rising.) (太陽が出ている)

up の「上に」「現れる」「起こる」という動きから「太陽が水平線から半分だけ出る」状態を象徴しています。



be 動詞は「覆すことができない事実, 真実, 真理」を表します。そのため,

What's up? (どうしたの? [=何が起こったの?]) を
What has been up?

と書き換える必要はないのです。あくまで前後の文章から適切な意味を考えましょう。

2. 動作を「連続して」「最後までやり通す」副詞

副詞としての **up** は, この世のすべての「空間を補い」「足りないものを補い」、動作, 行為を「完璧に, 最後まで徹底的にやり通す」を意味します。

(1) I will go **up** to Tokyo this afternoon.

(午後に東京へ行きます)

go to Tokyo で「東京へ行く」という意味ですが, go up to Tokyo で「東京までの空間, 距離を埋めて」「～まで連続して」を表します。

(2) She is dressing **up** to attend his wedding.

(彼女は結婚式に参加するために正装している)

up の「徹底して」「最後まで」「余すことなく」「きちんと」という意味は, 「連続して」という働きの結果から生まれるのです。

make up や dress up はまさにこのニュアンスがぴったりあてはまりますね。

3. 太陽の動きと out

out は「視界に現れる」または「姿を消して見えなくなる」を意味します。

(1) go **out** of the office (オフィスから出て行く)

of は「くっついて離れない」を意味しますので, 「いつもいるオフィスから姿を消す」というニュアンスになります。

out は太陽が東から現れる意味と, 西へ沈むという両方の意味を持ちます。

「現れる」の意味から, 「姿のすべてを表す」「すべて外に出てくる」「全体」というニュアンスがあります。反対に「沈む」の意味からは, 「すべての姿を消す」というニュアンスがあります。なお「全体」の意味から, all out (全力で) という表現もあります。

(2) A: The moon is **out**. (月が出た)

B: The sun is **out** of our sights from the horizon.

(太陽が地平線から姿を消した)



日没という表現は,

The sun set in the west.

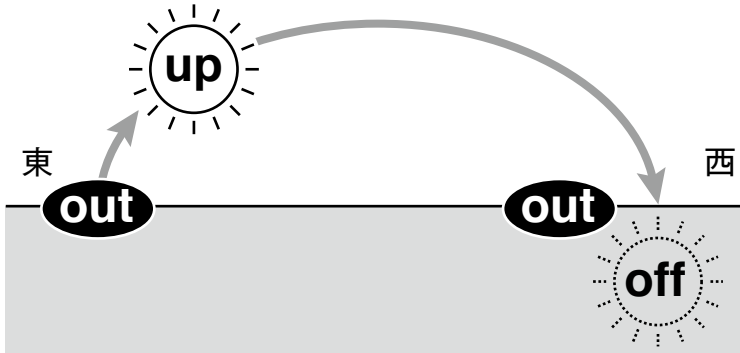
The sun dropped.

の方が一般的に使われます。

4. 太陽の動きと off

off は「今いるところから離れて」「その場を離れて」その結果「遠ざける」「死ぬ」を表します。

これは日没の動きを象徴しています。



(1) He is **off**. (姿が見えない [=外出している])

(2) He went **off**. (彼は亡くなった)

go が「戻る」という意味を意識させない動詞なので、「帰らぬ人となる＝死」という意味も出てくるのです。

(3) I get **off** the train.

(今乗っている電車から離れる [=乗っている電車から降りる])

get (乗っている) と off (今いるところから離れる) という意味から、「乗っている電車から降りる」となります。

5. 前置詞の意味を強める副詞

たとえば, right, straight, away, far, by far のような副詞は,
副詞＋前置詞の形で前置詞の意味を強めるのです。

◎ **right** は「まさに」「すぐに」を表す

(1) I'm all **right** with you. (その通りだ)

(2) **right** after turning off the light

(あかりを消してからすぐに)

(3) **right** on your right side (君のすぐ右手に)

right の使用例	意味
right after～	～してからすぐに
right away～ right off～	(時間的に)ただちに
right now	今すぐ
right on～	～のすぐに(場所を表す) まさにそのとおりだ
right before～	～の直前に
right after～	～の直後に
right with～	～のとおりだ



因果関係の法則

◎ **straight** は「ちゃんと」「きちんと」「余すところなく」「連続して」を表す

- (1) Please go **straight** up and you can find it right on your left side.
(まっすぐ行けば、すぐ左手にそれが見えてきます)
straight up で「ちゃんとまっすぐに」を表します。

◎ **away** は距離、時間を表す前置詞や副詞を強める

- (1) Go **away**! (遠くに姿を隠しなさい！ [= 離れなさい！])
off が「その場を離れて」を表すのに対して、**away** は「off よりもさらに離れて」「遠ざかる」「姿を隠して」を意味します。そのため、go away ~ で「~ から離れる」となります。

- (2) He is living a little **away** from the school.
(彼はその学校から少し離れたところに住んでいます)

- (3) He is **away** from the office. (彼は会社にはいません)

- (4) **Away** from me! (私から離れて！)

◎ **far** は「かなり」の意味で前置詞や副詞を強める

- (1) She is **far** on, so it's rather hard to follow them.
(彼女は年だから、彼らについて行くのは難しいよ)

参考 far away (かなり遠くに)
far on (年をとる)

- (a) He is from California. (彼はカリフォルニア出身である)
(b) He has come from California. (彼はカリフォルニアから来た)

(a) は出身地を表す以外の意味はありません。このように因果関係の成立していない文章はコミュニケーションがこれ以上発展せず、相手を困らせてしまうので注意しましょう。

(b) は「カリフォルニア出身である」とも、「ここに来る以前はカリフォルニアにいた」とも訳せます。彼の今までの「情景」が理解できる、因果関係が成立している文章といえるので、(b) の方が会話の相手に対して親切といえます。

英語には「情景発想」がなくてはならないのです。たとえば see という 1 つの単語には「見る」という意味だけでなく、「会う」「わかる」「理解する」「悟る」などの意味が出てきます。

「見る」の対象が本であれば、「どんな本かわかる」。人であれば、「人がいることを認識する」、また、その人が友人であれば「会う」という意味にもなります。

See, the bus is coming!

という文章には、

If we see over there, you can see her coming.

という因果関係が隠れているのです。
因果関係なしではコミュニケーションは成立しないのです。

ビジネス書&語学書

著者の本音!

立ち読みデータはここまでです。
続きはぜひ、書店さんでお求めください。

- ・ アマゾンでのお求めは、[こちら!](#)
- ・ 紀伊國屋書店でのお求めは、[こちら!](#)
- ・ e-hon でのお求めは、[こちら!](#)
- ・ 楽天ブックスでのお求めは、[こちら!](#)
- ・ 本やタウンでのお求めは、[こちら!](#)

突撃
インタビュー



 明日香出版社